

当院における SARS-CoV-2 抗原定量検査再検率の実態

◎齋藤 詩織¹⁾、伊藤 宇史¹⁾、中山 雄太¹⁾、外波山 幸稔¹⁾、鈴木 泰秀¹⁾、高林 保行¹⁾
JA 静岡県厚生連 遠州病院¹⁾

【はじめに】新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）の検査法の1つである SARS-CoV-2 抗原定量検査は、化学発光酵素免疫測定法（CLEIA）を用いた検査法である。技術習得が容易で、測定時間が 30 分程度と短く大量検査が可能であり、核酸増幅検査と同程度の感度をもつとされている。当院では 2020 年 8 月から、ルミパルス G1200 を使用した鼻咽頭ぬぐい液による SARS-CoV-2 抗原定量検査を導入し、同年 11 月からは唾液による測定も開始した。今回、当院での SARS-CoV-2 抗原定量検査における再検率を調査したので報告する。

【対象及び方法】2020 年 8 月から 2022 年 3 月までの期間に依頼があった SARS-CoV-2 抗原定量検査 15,639 件を対象とした。測定試薬は「ルミパルス SARS-CoV-2-Ag 免疫反応カートリッジ」を用い、測定装置は富士レビオ「ルミパルス G1200」を使用した。鼻咽頭ぬぐい液については 0.95pg/mL 以下を陰性、0.96-499.99pg/mL を判定保留、500.00pg/mL 以上を陽性とした。唾液については 0.66pg/mL 以下を陰性、0.67-499.99pg/mL を判定保留、

500.00pg/mL 以上を陽性とした。初検値が判定保留域となった場合は再検査を行い、再検査後も判定保留域となった場合はミズホメディー「Smart Gene®」を用いて核酸増幅検査を実施した。

【結果】SARS-CoV-2 抗原定量検査 15,639 件中、陰性 15,381 件（鼻咽頭：9,611 件、唾液：5,770 件）、陽性 150 件（鼻咽頭：138 件、唾液：12 件）、判定保留 108 件（鼻咽頭：60 件、唾液：48 件）であった。再検率は鼻咽頭ぬぐい液が 7.46%、唾液が 2.17%であった。核酸増幅検査の結果は、陰性 83 件、陽性 25 件であった。

【まとめ】SARS-CoV-2 抗原定量検査はその特長から、速やかに結果が求められる救急外来、入院前、手術前、クラスター発生時には有用であり、必要不可欠な検査となっている。しかし、一定数の検体において判定保留となることから、再検を念頭に置き核酸増幅検査を併用していく運用が当院においては最適だと考えられる。

連絡先：053-453-1111（内線 2309）